



11 / 25 日

11:00 ~ 15:15



和と白干潟・海の広場 (福岡市東区和白4丁目)

参加無料 小雨決行,雨天は集会所(和白3・4区)荒天中止



風のように(ミヤコドリ)

♡ マリンワールドの
タッチプールもあるよ!

干潟の生きものと遊ぼう!



くわしくは2Pを見てね!!

第30回
♡ ラムサール条約登録をめざして!
和と白干潟まつり

第30回 和白干潟まつり

11月25日(日)



11:00~15:15 参加無料

干潟の生きものと遊ぼう

会場 和白干潟・海の広場

(東区和白4丁目海岸) 駐車場なし

小雨決行・雨天は集会所(和白3・4区)荒天中止

主催/ 和白干潟まつり 実行委員会

[構成団体] 和白干潟を守る会、

グリーンコープ生協ふくおか 福岡東支部

協賛団体/ 日本野鳥の会福岡支部、博多湾会議

(株)ファーストソリューション

後援/ 西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、

読売新聞西部本社、九州朝日放送、RKB毎日放送、

テレビ西日本、TVQ九州放送、FBS福岡放送、

NHK福岡放送局

模擬店・バザーの出店希望の方へ

イベント・模擬店・バザーの出店希望は、

10/25までに 実行委員会にお申し込みください。

干潟まつり実行委員会で決定します。

(営利目的の事業者の出店はお断りしています)

お問い合わせ
お申込み

今村・090-3413-6443

カンパなどのお願い

第30回和白干潟まつりを成功させるために、
皆様のご協力をお願いいたします!!

1. カンパは干潟まつりの運営資金や保険料などにあてます。

カンパの送り先: 和白干潟を守る会

郵便振替01720-4-23860

2. 他の会の機関誌にも干潟まつりの案内を掲載したり、チラシの配布にもご協力下さい!

ラムサール条約登録をめざして

今年もラムサール宣言を出します!
福岡市長のメッセージが届きます!

プログラム

開会式	11:00~11:20
バードウォッチング	11:20~12:00
自然あそび	12:00~12:40
植物観察	12:40~13:20
干潟の生物観察	13:20~14:00
コンサート・マジック	12:00~14:15
紙しばいほか	
一言アピール	14:15~14:30
手をつないで	14:30~14:40
干潟の掃除	14:40~15:00
タッチプール・水槽展示	11:20~15:00
写真展・パネル展	11:20~15:00
模擬店・バザー	11:30~15:00
閉会式・ラムサール宣言	15:00~15:15
(後片付け・反省会)	15:15~16:00

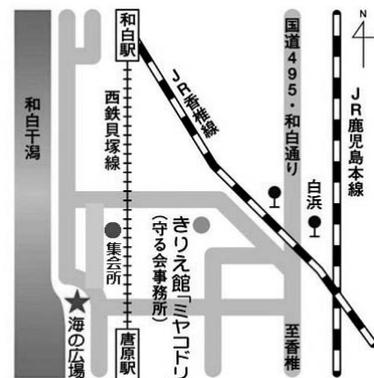


干潟まつり ボランティア募集!!

前日11/24(土)15時~ 会場整備
当日11/25(日)9時~ テント設営、
運営手伝いなど

交通

- 西鉄貝塚線 唐原駅より 徒歩5分
- 西鉄・JR和白駅 より徒歩10分
- 西鉄バス 白浜バス停より 徒歩5分



参加される皆さん、長靴・敷物は持ってきてね!

7月22日(日)「夏休み!和白干潟の生き物やハマボウを見る会」



和白干潟保全のつどい主催の「和白干潟の生き物やハマボウを見る会」は今年で第9回となりました。連日の猛暑のなかでの観察会でしたが、参加者は51名で、夏休みの自由研究にと、参加した親子連れが中心でした。開会の10時半前にはハリエンジュの木陰に集まって、ハマボウを見る会の歴史の説明、あらかじめ捕獲しておいたカニ類の紹介を見て出発。ポイントごとにその場所の貝やカニをつかまえて観察。いろいろな種類のカニを見ることができました。

唐原川左岸の希少植物シバナやフクドの囲いのそばではハクセンシオマネキを獲って見てもらいました。唐原川河口の淺筋を渡り対岸の岩礁地帯のポイントで説明があり、それぞれの地点に違う種類の生き物がいることをみんなで確認しました。

牧の鼻のハマボウの花は、盛りを過ぎていましたが、たくさん広がって咲いており、どこが親木だったかわからないくらいでした。ほとんどの参加者が初めてなので、「ハマボウ」を花とは知らなかったというお母さんもいました。ハマボウの前で記念写真を撮影し、現地解散しました。感想では「干潟に住む生き物が環境のため頑張っていることを知った」「ハマボウの花を初めて見られて良かった」「短い距離の間にも環境の違いで生き物が違っていることを知った」など大変好評でした。今年の暑さは全国的に格別で、熱中症を心配しましたが、観察中には問題は無かったので、ほっとしました。しかし、開始前にすでに母子2組が脱落し、現地集合までに体力を消耗するケースもあるので、野外活動には大変厳しい状況だったかもしれません。スタッフも高齢化するため、こんな暑さが続くようであれば来年も実施できるのか、心配になりました。(今村)

9月18日(火)日本自然保護協会の「自然しらべ2018」アリ調査

強い日差しの中、和白干潟の海の広場に6名が参集。秋の渡りのセイタカシギが1羽、ミサゴのそばにいました。守る会は毎年日本自然保護協会の「自然しらべ」に参加していますが、今年は足下のアリに注目。海の広場の草むらは、バッタやコオロギ、蝶などの昆虫王国です。小さなアリを捕まえるのは意外に難しく、巣穴を見つけその周辺を探したり、林の中で丈の高い草をのぼっているのを捕まえたりしました。枯れ枝の中に巣作りしていたアリの大群が、驚いてワァーと出てきたのには驚かされました。捕まえたアリをセロテープに貼りつけ、顕微鏡と双眼鏡を合体したような「ファール」の台に載せて1匹ずつ観察し、種別を見極めました。アリは普通のルーペではとても細かい部分までは見えないため、ファールが威力を発揮しました。これが無ければ到底見定めることができませんでした。アリのチェックリストと照合し、頭の形、お尻の形、腹のくびれ(節)の数、触角の長さ、手足の長さ、胴体の模様、色などポイントを正確に把握しなければなりません。概ね意見が一致したもので判定しました。その結果、海の広場では「腹柄が2節のアリ」が5種(テラニシシリアゲアリ、イソアシナガアリ、アズマオオズアリ、ハリプトシリアゲアリ、キイロシリアゲアリ)、「腹柄が小さい1節のアリ」が2種(クロクサアリ、アメイロアリ)の計7種を1時間ほどで見つけました。



次に、宅地のアリも山本代表宅の庭で調査しました。「腹柄が2節のアリ」が2種(ハリプトシリアゲアリ、テラニシシリアゲアリ)と「腹柄が大きい1節のアリ」1種(イトウオオアリ)の3種を見つけました。そのうちハリプトシリアゲアリは、海の広場でも、宅地でも共通して見つかり、一般的なアリではないかと思いました。参加者からは「みんながいたから種類など特定できた」「セロテープでアリをつぶして、かわいそうだった」などの感想がありました。確信をもって断定できるほどの知識がなく、チェックリストにある「身近なアリ」が40種以上も種類があることに驚き、もっと関心を持って見ておけばよかったと反省しました。(今村)

和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます

- ・8/22「和白東レインボークラブ連合会」様より寄付金をいただきました。
- ・会員の方から望遠鏡、双眼鏡等寄贈していただきました。



大切に使用させていただきます!

ハママツナ

アカザ科。暖地の海岸に生える、多肉質の1年草です。高さは30～50cm。オカヒジキに似ていますが、葉の先はオカヒジキほどはとがっていません。花期は9～10月で、秋には紅葉します。和白干潟ではアシ原の入り口付近や唐原川河口左岸、雁ノ巣海岸などで大きな群落が見られ、和白干潟を赤いじゅうたんで縁取ります。有明海の泥干潟には同じアカザ科の「シチメンソウ」が生えていますが、砂質の和白干潟には「ハママツナ」が生えています。台風の高潮でアオサを被ると、ハママツナは枯れてしまいます。被害のないことを祈っています。



ハママツナ

チゴガニ



チゴガニ

コメツキガニ科。甲幅1cm。淡水の影響が強い河口の泥地や砂礫地にすんでいます。甲は六角形に近い形で、胸は美しい青色です。30年前は和白干潟に面した唐原川河口の広い砂泥地にたくさんの群れですんでおり、一斉にハサミを上下する姿が見られました。しかし魚釣りの餌のために捕獲され、しかも現在はその場所に砂が被ってチゴガニはいなくなりました。心配していましたら、唐原川を200m程上った小さな川の岸辺にすむようになり、また今年は河口から50m程上った川岸の干潟にチゴガニがすむようになりました。近くにはハクセンシオマネキのすみかがあり、ハクセンシオマネキもずいぶん多くなりました。これからもチゴガニが増えていってほしいですね。

ソリハシシギ

シギ科。全長23cm。旅鳥で、春と秋に和白干潟に立ち寄ります。唐原川河口や奈多のクリークや海岸で、良く見かけます。キアシシギとよく一緒の群れになっていますが、羽数は少ないです。動きが活発で、小型のカニ類を食べます。「ピッピッピッ」と笛のような声で鳴きます。くちばしは長くて上に反り、足はオレンジ色で短めです。東南アジアやオーストラリアなどで越冬しています。毎年秋にも訪れており、会えるのはとても嬉しいです。



ソリハシシギ

秋の和白干潟のしぜん情報

アシ原：アシに穂が付きだんだん膨れてきます。キンエノコロも穂をつけています。センニンソウの白い花が木々を覆っています。ハマサジやウラギクの花が咲き、ハママツナやイソホウキギなどが紅葉。樹林帯のハゼやナンキンハゼも紅葉。アキグミやセンダン、シャリンバイやトベラなどの実がみのります。

干潟：今夏は特に異常な高温でしたが、アオサは和白干潟沖合で育っていました。9月下旬には強風や高潮で和白干潟沿岸に流れてきて、20cmの厚さまで積もりました。今年は早く流れ着きました。唐原川河口では、産卵に来たクサフグが群れでぐるぐると回っていました。

水鳥：10月には淡水ガモや海ガモが飛来。ミヤコドリやクロツラヘラサギも訪れます。(ミヤコドリは7羽が越夏しました。) 11月には越冬するシギ類、カイツブリ類、カモメ類も渡ってきます。12月にはツクシガモが飛来して和白干潟の冬鳥がそろいます。冬鳥たちの訪れは楽しみです。

秋のシギ・チドリ第2回目調査を実施 (全国一斉調査)

和白干潟を守る会は「環境省モニタリングサイト1000」で、春期・秋期・冬期のシギ・チドリ調査を博多湾東部と今津(西区)の2地域で実施しています。今津では9月2日に調査し、コチドリ4羽、トウネン5羽、アオアシシギ5羽、イソシギ9羽、ソリハシシギ5羽、セイタカシギ2羽の8種36羽がカウントされました。他にはミサゴ3羽も観察されました。



9月9日の午後は、博多湾東部の調査をしました。雨が上がり、ミヤコドリ7羽、キアシシギ11羽、イソシギ10羽、ソリハシシギ3羽など5種33羽がカウントされました。他にはミサゴ7羽も観察されました。和白や奈多ではアオサが増え、干潟に堆積していました。雁ノ巣にはアサミドリシオグサの方が多かったようです。ダイサギやアオサギも多く見られました。調査参加者は今津が3名、博多湾東部が10名でした。(山本)

辺野古の海の埋め立て反対の声の反映は？

8月17日の基地建設のため辺野古の海へ土砂投入を前に、埋め立て承認の撤回手続きを進めていた翁長沖縄県知事が亡くなったため、知事選が始まり、現在工事そのものは止まっています。建設反対議員の多い県議会で提案された「辺野古への県内移設計画の賛否を問う県民投票」も知事選後に実施される見込みですが、「辺野古の海を守りたい」と願う全国の市民の声が反映されるのでしょうか？

和白干潟を守る会は、西日本各地から辺野古埋め立て用の土砂を集めることに反対する全国連絡協議会の趣旨に賛同し、署名活動を行っています。埋め立て予定地の地盤はマヨネーズ並みの軟弱地盤で埋め立て用の土砂の75%は沖縄県外から入れないと計画通りの土砂確保は困難と言われており、天草の御所浦、鹿児島県徳之島など住民運動や漁協の反対で土砂搬出をやめたところもあります。また、国は絶滅危惧種のサンゴを移植しないまま工事を進め、特定外来生物の侵入に対する対策も示していません。



9月30日に移設反対派が知事選に勝利しましたが、政府は全力でまた対抗手段を取ってくるのが予想されます。しかし、一度壊された自然は二度と戻らないことを人工島建設で経験済みの和白干潟。私たちの自然環境を守る活動が未だ続いているように、辺野古の海を守ろうという思いは今後も粘り強く続いていくでしょう。(今村)

諫早湾開門の確定判決の取り消しは重大!

福岡高裁は2010年12月、諫早湾潮受け堤防の開門を命ずる判決を確定しました。国は開門してもしなくても制裁金を支払うことが2015年1月最高裁で決定し、制裁金が支払われていました。しかし2016年、国は開門を前提にしない漁業基金案を提示し、和解協議も提案されましたが、漁業者側が受け入れず決裂しました。2018年7月、福岡地裁はこれまで国に開門を命じた確定判決を取り消しました。一度確定した判決を取り消すのは異例であり、国の権力によって確定判決が無効に出来るということの重大さを深刻に受け止めざるを得ません。この判決を不服とし8月に漁業者側は最高裁に上告しています。

日本湿地ネットワークは1997年4月の諫早湾潮受け堤防の閉め切り以来4月14日を「干潟・湿地を守る日」として毎年全国の干潟・湿地を守るために力を合わせて行動することを宣言しています。和白干潟を守る会は今年も4月28日のクリーン作戦の日宣言を出しました。長期にわたる裁判闘争の間に豊かな漁業資源は失われ、有明海の再生は遠のいていきます。国の政策に翻弄され入植した農業者も、無用な制裁金と言う税金を負担させられてきた国民もみんな犠牲者です。(今村)

気が付いたらあなたも電話してください!

** お願い **

海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時
092-282-7146 (港湾空港局・維持課)

干潟でのゴルフやラジコンの練習、ドローンの使用
はやめましょう! とても危険です。

沖のアオサをとってほしい時
092-282-7153 (港湾空港局・環境対策課)

干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう!
(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)

犬のフンの始末は飼い主がしましょう!



弱った野鳥を見つけた時 092-513-5611 福岡県筑紫保健福祉環境事務所 地域環境課
092-643-3367 福岡県環境部 自然環境課 野生生物係



2018年6月

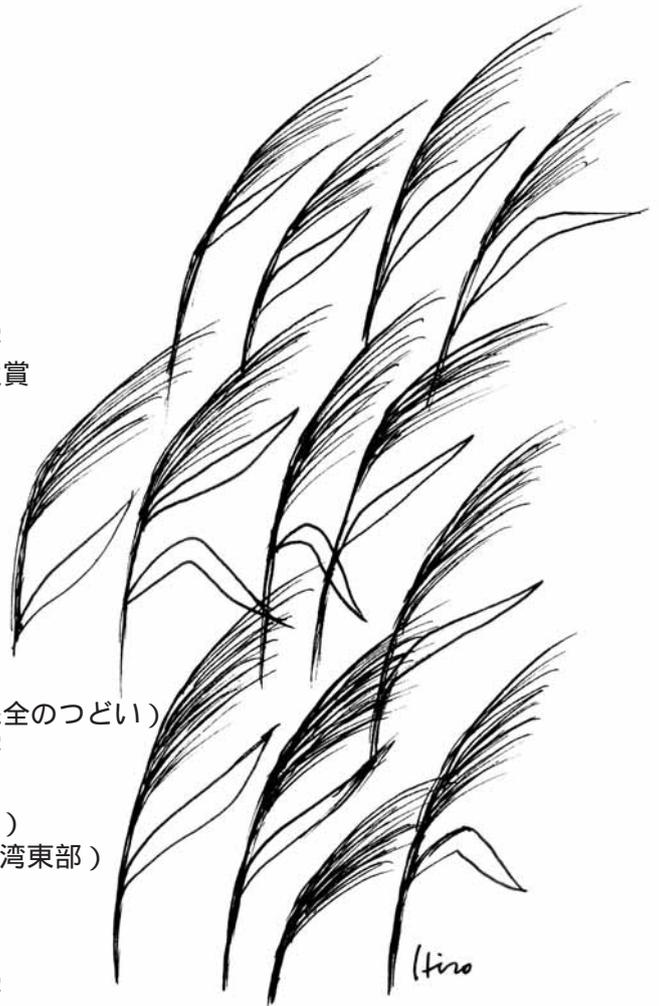
- 6/2 (土) 和白干潟通信127号編集会議
- 6/3 (日) 第21期和白干潟の自然観察ガイド講習会
- 6/7 (木) 香椎保育所の和白干潟観察会
- 6/10 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
ラブアースクリーンアップ
- 6/11 (月) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 6/12 (火) 30周年記念イベント準備会第3回
- 6/14 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 6/18 (月) 30周年記念イベント準備会第4回
- 6/23 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 6/24 (日) 和白干潟を守る会30周年・日本自然保護大賞
受賞記念シンポジウム
- 6/30 (土) 和白干潟通信127号編集会議

2018年7月

- 7/5 (木) 30周年記念イベント準備会第5回
- 7/8 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 7/11 (水) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 7/12 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 7/14 (土) 山・川・海の流域会議参加
- 7/17 (火) 干潟通信127号発送会
- 7/22 (日) 和白干潟の生きものやハマボウを見る会(保全のつどい)
- 7/28 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察

2018年8月

- 8/5 (日) 2018年秋期シギ・チドリ調査1回目(今津)
- 8/7 (火) 2018年春期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
- 8/9 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 8/11 (土) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 8/12 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 8/25 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 8/28 (火) 第30回和白干潟まつり第1回実行委員会



干潟のつばやき「プラスチックゴミを捨てないでね!」

マイクロプラスチックは5ミリ以下のプラスチックごみですが、今これが世界中で問題視されています。魚などの海洋生物がマイクロプラスチック自体と、それに付着した有害物質(PCBやDDTなど)を摂取し、生物濃縮によって野鳥や人の健康にも影響するのではと懸念されています。このマイクロプラスチックは次のようにして作られます。波などの力と太陽光により、もろくなり砕ける、家庭での衣類の洗濯による布からの合成繊維の脱落、スーパーやドラッグストアで売られている歯磨き粉や洗顔料、化粧品などに含まれるマイクロプラスチックビーズなどです。先日、世界の13カ国の水道水やビールからマイクロプラスチックが検出されたとの新聞報道がありました。日本人一人当たりのレジ袋使用量は年間300枚でアメリカに次いで世界第2位とのこと。しかし、アメリカではマクドナルドやスターバックスコーヒーなどがプラ製のストロー廃止を宣言しました。日本でも対策が急がれます。和白干潟のクリーン作戦では、漂着してきたペットボトルやレジ袋、プラスチックの包み紙などが回収されています。これらのプラスチックごみは、きちんとかごみ処理されていけば焼却されて存在しないものですが、誰かが不法投棄している訳ですね。ペットボトルやレジ袋は大きくて分かりやすいので回収されますが、お菓子などの包み紙、発泡スチロールくずは小さくて見逃されることもあります。拾われる前に風化して砕けてしまうと、もう回収不可能です。ごみのポイ捨ては止めましょうね。マイクロプラスチックを生み出すこととなります。(山之内)



プラスチックごみ

9月22日(土)ビーチクリーンアップ・漂着ゴミ調査



国際ビーチクリーンアップは世界的規模で一斉にゴミ調査をする催しです。9月22日のクリーン作戦では、49名が参加し194袋のゴミを回収しました。海岸の人工ゴミを1時間拾い集め、その後人工ゴミを分類調査する班とアオサを回収する班に分かれました。人工ゴミは35種類に分類し集計しました。特に多かったのは食品の包装や袋でした。調査には九産大宗像ゼミ、西日本シティ銀行の方々などの協力がありました。(山之内)

和白干潟の水質・砂質調査結果

表は2018年4月から2018年9月までの水質調査と砂質調査結果です。水質調査についてはリン、窒素、CODとも最近では普通か少し良い状態で、透視度は良い時と悪い時がありました。砂質調査については、表層酸化層の厚さが浜辺から10メートル地点の方が薄いですが、最近では良い方です。

水質調査結果 (2018年4月～2018年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン(PO ₄)	mg/l	0.02	0.02	0.02	0.02	0.1	0.02
化学的酸素要求量(COD)	mg/l	5	5	5	5	5	4
亜硝酸(NO ₂)	mg/l	0.01	0.005	0.01	0.005	0.005	0.005
透視度	cm	100	66.5	46	28	65	73

砂質調査結果 (2018年4月～2018年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
10 ^m 地点 表層酸化層の厚さ	mm	4	4	7	5	2	2
還元層の黒色度	-	12	13	14	14	14	13
150 ^{cm} 地点 表層酸化層の厚さ	mm	18	12	8	4	6	4
還元層の黒色度	-	13	13	13	13	14	13

唐原川・和白川の水質調査結果



唐原川・和白川については2015年5月からリン酸イオン、化学的酸素要求量、亜硝酸について水質調査を行っています。結果については以下の表に示されるように、いずれの値についても和白干潟に比べて汚れており、唐の原川についてはCOD値が高い値を示しています。

唐原川 水質調査結果 (2018年4月～2018年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン(PO ₄)	mg/l	0.02	0.05	0.02	0.07	0.1	0.02
化学的酸素要求量(COD)	mg/l	5	13	5	8	17	15
亜硝酸(NO ₂)	mg/l	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005

和白川 水質調査結果 (2018年4月～2018年9月)

測定項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
リン酸イオン(PO ₄)	mg/l	0.02	0.02	0.04	0.05	0.02	0.05
化学的酸素要求量(COD)	mg/l	5	7	5	6	7	6
亜硝酸(NO ₂)	mg/l	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005

守る会問い合わせ窓口

ホームページ: <http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

- 入会 / 観察会(申込等) 山之内 芳晴 Tel. 090-8412-2663
- クリーン作戦 田辺 スミ子 Tel. 090-1346-0460
- 広報 / 調査 / 定例会議 山本 廣子 Tel/Fax. 092-606-0012
- 干潟まつり 今村 恵美子 Tel. 090-3413-6443



【編集】 山本 廣子・山之内 芳晴・田辺 スミ子・今村 恵美子・高田 将文
《カット》くすだ ひろこ 次号は2019年1月に発行予定

【編集後記】今年の夏は記録的な猛暑でした。朝夕欠かさず夏野菜に水をあげましたが、日中はぐったり。蚊も少ないように感じました。そろそろ秋を感じますが、今年植えた和白干潟のハマボウが一株、すくすくと育っています。成長が楽しみです。(高田)

お知らせコーナー

バードウォッチング in 和白干潟2018

と き：12月8日(土) 10:00~12:00
集 合：和白干潟(海の広場) 東区和白4丁目海岸
主 催：和白干潟保全のつどい
申し込み：不要 問い合わせ：TEL 090-8412-2663(山之内)



定例スケジュール

定例会議(10/27, 11/24, 12/15)



毎月第4土曜日10時半~13時 守る会事務所にて開催。
12月は第3土曜日。

会員募集中!
年会費 個人 2,000円/団体 5,000円
カンパの協力お願い
郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

以下は参加自由です! 仲間が待っています!

クリーン作戦と自然観察(10/27, 11/24, 12/15)

毎月第4土曜日15時~17時 和白干潟・海の広場集合
長靴があると便利。駐車場なし。12月は第3土曜日。

ボランティアへのお誘い
和白干潟の清掃、鳥の調査の
お手伝い(車の運転、記録)、
観察会のお手伝い(写真撮影)
等です。
参加をお待ちしています!

和白海岸探鳥会(11/11, 12/9, 1/13)

毎月第2日曜日9時~12時 JR和白駅前の和白公園集合
主催：日本野鳥の会福岡支部 参加費：一般は300円、中学生以下は無料 駐車場なし

和白干潟の鳥たち(その84)

トウネン(チドリ目 シギ科 / Rufous-necked Sandpiper 当年 [全長15cm])



写真撮影：三宅 僚

トウネンは和白干潟には旅鳥として、春と秋に立ち寄ります。トウネンは当年と書き「この年生まれのもの、小さなもの」という意味です。スズメくらいの大きさで、小型のシギです。春は4月下旬頃、秋は9月中旬頃に見られます。以前は大きな群れで渡来していましたが、近年は大きな群れを見ることは稀になりました。

干潟では見られなくても、近くの西戸崎の浜辺で400羽の群れが観察されたこともあります。昨年秋には観察会の時に、和白干潟の沿岸で食事をする17羽のトウネンが見られました。すぐ近くで見えても、気にせずにアオサにつくハマトビムシなどを懸命に食べている姿はとても可愛かったです。

今年は何羽来てくれるでしょうか? (山本 廣子)